

■東京大学 野地博行教授

らはがんやインフルエンザに  
関係する微量のたんぱく質を  
汗や血液から従来の100万  
倍の感度で検出する技術を開  
発した。英科学誌（電子版）  
に近く発表する。

たんぱく質に結合する抗体  
という分子に蛍光物質をくっ  
つけ、蛍光の測定でたんぱく  
質の有無を判定する。半導体  
製造技術を利用し、1ミリの角の  
ガラス基板に100万個の微  
細なくぼみを作った。たんぱ

## たんぱく質検出 感度、100万倍に

く質が混ざった溶液を流し、  
1つのくぼみに1つのたんぱ  
く質が入り込んで検出できる  
仕組み。

前立腺がんのたんぱく質を  
調べる実験をしたところ、従  
来の100万分の1の濃度で  
も検出できた。

極めて少量の物質を捕らえ  
るので、がんやウイルスの早  
期発見が期待できるといふ。  
血液のほか、唾液や尿などで  
も病気を診断できる可能性が  
ある。